

山梨県の東部、郡内地域*は古くから織物業が盛んで
ここ西桂も「郡内織物」の産地として栄えてきました。

富士山の伏流水を大切に使い、機を織る文化は、今なお息づいています。
受け継いだ伝統を守りながら、新しい織物の在り方を模索していく西桂。
未来につながる織物産地としての挑戦が始まっています。

*富士吉田市・西桂町・都留市・大月市・上野原市を含む一帯

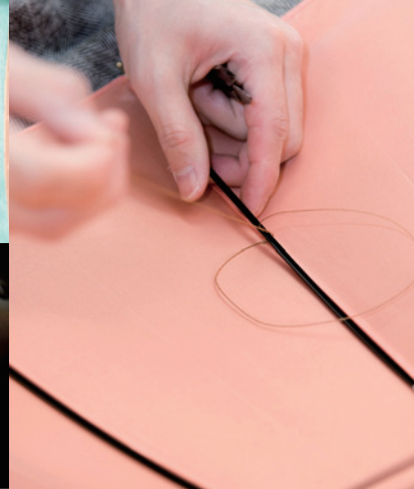
機織りの音が 聞こえる町「西桂」



▽日傘[菜-sai-]／株式会社横田商店
野菜をモチーフにした日傘。伸縮する糸を織り込むことで、傘を閉じたときと、広げたときの表情に変化が生まれます。差しても、持っても楽しい日傘。写真は左上から時計回りに、紫おくら、はくさい、どうもろこし、にんじん。

△シルクカシミアストール／武藤株式会社
昭和30年代の古い織機(しよっき)で丁寧に織られたストール。
繊細で優しい肌触りは、バリでも注目を浴びています。





持つだけで、心華やぐ。
織物の魅力を咲かせる傘作り。

1866年創業の榎田商店は、郡内織物の老舗。現在は傘生地と洋服生地を主力とし、OEM(相手先ブランドによる生産)製品と自社オリジナル製品を手掛けています。

以前は、OEM製品が主だったので会社の名前が隠れていたのですが、産地の名前を知ってもらい、自社の価値を上げたいという思いから、長年培った織物技術や企画力を生かした自社ブランドをつくることにしました。

野菜をモチーフにした日傘など、傘の自社ブランドを立ち上げたのは今から4〜5年前。榎田さんは老舗としてのこだわりを語ります。

「生地デザイン、織り、傘の製造まで一貫して行っています。織物屋が作る傘ですから、傘生地を楽しんでいただき、差すことで気持ち華やかような傘を目指しています。

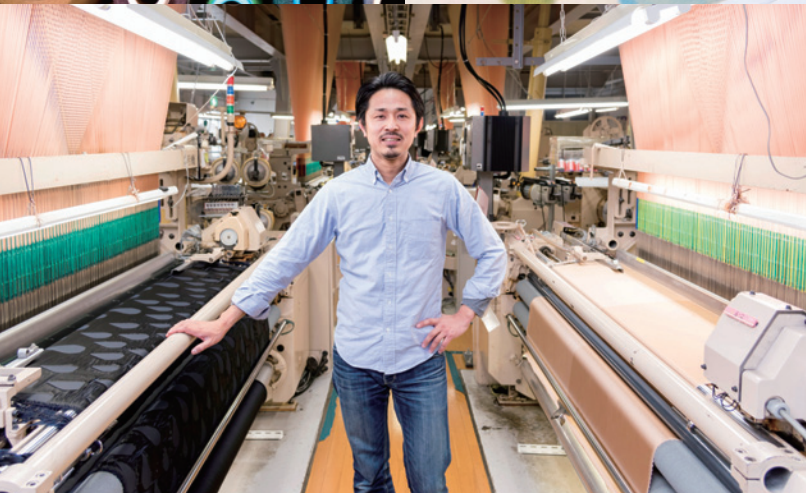
例えば、先染めは糸を染めてから織るので、絵柄に立体感があり発色も美しいです。裏から反転した生地の表情を見ることができると、織物が持つ魅力です」

無限の美しさを

傘に織り込む作り手の思い。

最新鋭の織機、柔軟な感性、そして職人の技、全てが溶け合っ、独自性の高い国産傘は生まれていきます。

「織物は、たて糸とよこ糸で作る単純な構造と言えるのか



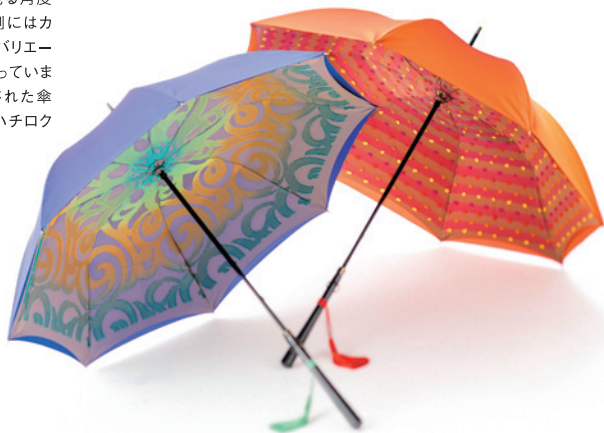
榎田 洋一さん

常務取締役

株式会社榎田商店／南都留郡西桂町小沼1717／TEL. 0555-25-3113

▷晴雨兼用傘 [1866]

表生地は甲斐絹の伝統的な織りで、玉虫色のような光沢があり、見る角度によって色が変化します。内側にはカラフルな服地を用いることで、バリエーションが楽しめるデザインになっています。榎田商店の全てが集約された傘として創業年の「1866(イチハチロクロク)」と名付けました。



もしれませんが、そこから生まれるものは無限です。『傘』という字は末広りの屋根の下に、『人』という字が集まっています。傘が出来上がるまでには、何人もの『職人』が関わっています。そしてその傘を使ってくださる『人』がいる。私は傘という字に、そんな意味合いを感じ、丹念なものづくりへの思いを重ねています。そして、織物産地としての未来も広がっていくことを期待しています」

織物、温故知新。
古き織機に寄り添い、織りを極める。

戦後から織物業を営み、現在はストール、マフラーを製造する「武藤」の毎日は、織りへの挑戦、研さんの日々だと武藤英之社長の奥さん・恵さんは言います。

「当社は平織りに、こだわっています。平織りは単純なようでごまかしが利かない難しい織りなんです。麻、オーガニックコットン、シルクカシミアなどの天然素材の風合いを生かし、肌に触れたときのふんわり柔らかい感触を出すには、工場であえて糸を紡ぐところから始め、仕上げの段階まで、手を掛け、目を配り、丹念に作っています。」

武藤が主に使っている古いシャトル織機は、ゆっくりとした動きで手作業に近い感覚があります。とても手間が掛かりますが、最新の高速織機では武藤が求める風合いは出せません。天然素材の極細糸は非常にデリケートですから、あえて昔ながらの古い織機を使っています。」

一枚のストールから広がる
世界を夢見て。

最近出展したパリの展示会では、武藤の生地を見たデザイナーから「ここまで細い繊維は見たことがない、この繊細な生地に私のデザインを入れてみたい」となどの評価をいただいたと言います。2人の息子さんが家業を継ぐ道を選び、長男の圭亮さんは「思いの外、多くの引き合いをいただ





武藤 恵さんと長男の圭亮さん(右)・次男の巨亮さん(左)

武藤株式会社／南都留郡西桂町倉見113／TEL. 0555-25-2814

き驚いています。これからも伝統の技術を守り、それを応用しながら、新しいものに挑戦していきたいです」と力を込めます。

「女性はストール一枚で雰囲気が変わるもの。合わせる色で、顔色もすっと明るくなります。また、その人がもともと持っている魅力を引き出す力が、ストールにはあるように思います」。武藤の看板商品シルクカシミヤのストールを大切そうに手にした恵さんは、優しい表情でほほ笑みます。

